

やっぱり大事です。 風土に合った家づくり

これからは、高性能住宅が当たり前の時代。だからこそ性能はもちろん、
デザインについても納得いくまで検討することが重要です。
今回は岩手県で個性あふれる家づくりに取り組む立花清久氏に、
白鳥顕志氏がお話をうかがいました。

白鳥氏(左)と語る立花氏。「難しかったのは天井の気密化でした」独自のキューブ構造によって天井断熱を追求した



誰でも建てられる高性能住宅を目指し、 独自の工法も研究

白鳥 立花さんとは年齢も近いですし、独立した時期もほぼ同じで驚きました。創業当初から、性能を備えた家づくりをしようと決めていたんですか？
立花 そうですね。そもそも高性能住宅との出会いは、岩手に帰郷して盛岡市の工務店に勤めていたときだったんですが、当時は性能にこだわらなくても家が売れた時代。高性能住宅を建てるのはひと握りのお金持ちばかりでした。そんな風潮に疑問を感じていたときに勤め先の社長が急死し、途端に苦情や不満が殺到しました。結局、社長が亡くなったことで不安になったユーザーの声をきき声が噴出したんでしょうね。それで決めました。自分

は絶対にレベルを落とした住宅はつくりたくないぞと。同じ予算なら何よりも性能を優先しようかね。

白鳥 うちも創業当初の頃は、「断熱材は半分でもいいから予算内で家をつくりたい」という依頼が結構ありました。夢と希望に対して、値段のギャップが大きすぎた時代でしたね。

立花 それは工務店自身が、高性能住宅がお客様にとってどんなメリットがあるのかを説明できなかったことに問題があったと思います。変わってきたのはオール電化が登場してからです。数値の比較がしやすくなり、住宅性能を理解する人が増えてきたと思います。

白鳥 それまでは、大工の腕が家の性能を左右するというような風潮がありましたからね。「俺がつくる家だから暖かいに決まってる」みたいな。それが、燃費や電気

特集

ECOな暮らし

ECOな住まい

素材感を生かした家づくり

CONTENTS

<SPECIAL INTERVIEW>

やっぱり大事です。
風土に合った家づくり

(ゲスト) (株)タックホーム 立花 清久氏 × (インタビュー) (有)木の香の家 一木精空間 白鳥 顕志氏

95p

ECO-FILE 1
アウトドアリビングの活用で
家族の時間をもっと楽しく

98p

ECO-FILE 2
自然の力と高い断熱性能で
隅々まで快適な平屋風の家

100p



消費量などの根拠を伝えることができるようになった。これは確かに大きい。

立花 それ以降は大手メーカーやフランチャイズによる気密工法もいろいろと登場しましたが、基礎断熱ができないとか屋根裏が利用できないなどの欠点もあつて。だからこそ自分で一生懸命、性能を研究したんです。

白鳥 そこから、タックホーム独自の「キューブ構造」が生まれたんですね。

立花 壁はパネル化し、基礎断熱という方法を考えたいんですが、難しかったのは天井の気密化でした。いろいろと試行錯誤し、気密層の内側を断熱するという現在の工法を見いだしました。大手に対抗するには、独自のブランドをつくるしかないという思いもありました。

多彩な勉強会やコンテストは 岩手だけのユニークな取り組み

白鳥 大手との差別化を図るという意味では、岩手県には「ドットプロジェクト」や「エコ・ハウスコンテスト」など、地元ビルダー同士の勉強会や団体がいろいろあるのが面白いですね。でも、ドットプロジェクトはQ値1.0以下をクリアするという、いわば究極の家づくり。その点はかなりアピールされると、高級層が建てる家というイメージになって、逆にユーザーのすそ野が広がらなくなるのでは？という心配もあるのですが。

立花 ドット住宅はトップランナー方式で、ヨーロッパで行われている超省エネ住宅のような「ブランド」をまずは示していく活動です。その上で、Q値1.6を提供している建物やビルダーをエコ・ハウスコンテストで表彰する。2段階構成と考えればいいと思います。

白鳥 確かにエコ・ハウスコンテストは、ユーザーとの

生まれたのも大きいですね。一人でやるのにも限界はあるし、そもそも地域の工務店同士はライバルではないですから。これをきっかけに地域の力を結集して、いろいろなことができるようになったらとも思います。

性能はもちろん、デザインも重要。 気候風土に合った住まいづくり

白鳥 私自身、岩手のビルダーの断熱知識レベルは相当高いと感じています。でも、お客様側から見ると性能は家のファクターの一つにしか過ぎず、デザインも大きな選択基準になっているのは事実ですよ。

立花 住宅を建てる年代層も、ここ10年で随分変わり、今は寒い家の「昔話」ができない若いお客様が増えていきます。だから高断熱・高気密一辺倒ではなく、付加価値をつけていかないと。ただデザインを重視するあまり、開口部の取り方や構造的に無理をしている家というのも、我々から見ると結構ありますね。

白鳥 それが設計の難しいところですね。私はデザインを意識しながら、性能や構造で無理をしないような住まいづくりを心がけています。

立花 保守的という意味ではなくね。要は機能がデザインになればいい。例えば、装飾だけの梁より建物を支えている構造の梁のほうが美しく思えます。

白鳥 ただ、大手メーカーのデザインにも見習うべきものはあります。私が会社員時代に上司から言われたのは「一流になるには一流を真似ろ。真似を繰り返すうちに、自分のオリジナル性が生まれてくる」ということ。それからは他社の家も、まずは「何で格好いいんだろう」と分析するようになりました。いい部分は堂々と素直に取

距離を縮めていくのに少なからず貢献していますね。

立花 重要なのは、誰でも自由に参加できるコンテストが、民間で自主的に行われているのは岩手県だけということ。それは大いに評価されていると思います。まさに岩手型住宅の一つの指標になり得るし、業界同士が厳しく審査し合うのもいいんじゃないでしょうか。

白鳥 確かに。私もエコ・ハウスコンテストの表彰式に行った際に、他のビルダーの発表に「これ、いいなあ」



(有)木の香の家
- 木精空間 -

代表

白鳥 顕志氏

【PROFILE】

宮城県栗原市出身。
東北大学工学部建築学科卒。
高断熱住宅技術講習会で講師を務めるなど、技術系の立場から断熱性能を追求しつづける仕事人。断熱のエキスパート。

「岩手には、他県にはない
独特な取り組みが
ありますね」

と思うものは多かったですね。でも、岩手県にそんな取り組みができる土壌が生まれたのには、何か理由があるんでしょうかね。

立花 一つはオール電化の普及で、セミナーなど工務店の集まる機会が増えたことでしょう。私のように一人で仕事を始めた人間でもコンテストに参加することで、「同志」として一緒に勉強しないかと声がかかる。グループ活動のおかげで、他の都道府県の工務店さんとの交流が



(株)タックホーム

代表

立花 清久氏

【PROFILE】

岩手県紫波町生まれ。
横浜にて大手建設会社の現場監督を経験後、岩手に戻り、地場ビルダーで設計経験を積む。2000年にタックホームを創業。独自工法「キューブ構造」による半地下収納室や北側採光など、高い性能をベースにした多彩な空間構成を得意としている。

「機能も地域性も、
デザインに表れて
きますね」

が、これからはその地域に合った設計をやっていく必要があるのだと思います。

白鳥 高い住宅性能に気候風土を考慮したデザイン力が加われば、岩手らしい住まいのすそ野も広がっていくはずですね。今日はありがとうございました。

